

## 第42回試験研究成果発表会プログラム

### 【農業関係の部門】

#### 経営経済部門

日時 平成17年2月24日(木) 10時30分～16時

場所 千葉県農業大学校

東金市家之子1059 (TEL 0475-52-5121)

#### ○養豚における食品製造副産物を用いたリキッドフィーディングの経済的評価

畜産総合研究センター企画調整部経営調査室 上席研究員 鈴木一好

食品製造副産物を用いたリキッドフィーディングを導入している養豚農家を調査したところ、発育改善効果とあわせた肥育豚での飼料費節減効果は31.4～35.4%であった。

#### ○飼料イネの生産、流通とその利用

畜産総合研究センター企画調整部経営調査室 上席研究員 鈴木一好

県内で行なわれている飼料イネの生産・調製、利用方法を四つの類型にモデル化した。それぞれの作業効率、生産コスト等から、適正な作業実施面積について検討した。

#### ○堆肥センターの運営状況と課題

畜産総合研究センター企画調整部経営調査室 主席研究員 土屋 均

堆肥センター11組織の調査から、処理体系の違いにより事業費、労働時間等に差があることが分かった。また、堆肥の利用販売態様は種々で、これらの分析から改善すべき課題を探った。

### 【畜産関係の部門】

#### 酪農・肉牛部門

日時 平成17年1月20日(木) 10時～16時

場所 さんぶの森文化ホール(さんぶの森公園内)

山武郡山武町埴谷1904-5 (TEL 0475-80-9100)

#### 1 乳酸菌培養液添加による飼料イネサイレージの発酵品質改善

畜産総合研究センター生産環境部飼料研究室 研究員 斉藤健一

自家調製により簡単にできる乳酸菌添加剤を用いて、飼料イネのサイレージ調製を行った結果、酪酸含量を0.1%以下に低下させ、飼料としての品質を向上させることが確認されたので、その技術を紹介する。

#### 2 県内流通乾草の飼料成分等の実態

畜産総合研究センター生産環境部飼料研究室 研究員 青木大輔

1997年度から2003年度までの7年間に自給飼料分析指導センターで分析を行った流通乾草299点について集計し、千葉県における流通乾草の飼料成分等の実態を解析した。

3 通気性防水シートによる堆肥の簡易保管試験

畜産総合研究センター生産環境部環境保全研究室 主席研究員 杉本清美  
各種通気性防水シートにより家畜ふんと堆肥製品を被覆して堆肥化と保管の状態を調査したところ、各シートで通気性を確認でき堆肥化が進行した。

4 繊維分解酵素入り乳酸菌の麦サイレージへの効果

畜産総合研究センター嶺岡乳牛研究所家畜管理研究室 研究員 平尾 明  
トウモロコシの前後作としての各種麦類について、良質サイレージ調製のために繊維分解酵素剤入り乳酸菌の効果について検討した。

5 環境にやさしい高泌乳牛の栄養給与技術 — 給与蛋白質の有効利用 —

畜産総合研究センター生産技術部乳牛研究室 主席研究員 渡邊晴生  
給与蛋白質の有効利用を図ることにより、高泌乳の実現と窒素排せつ物による環境への負荷の軽減を両立させ、かつ魚粉等の動物質飼料を使用しない栄養管理技術について報告する。

6 乾燥ゆでそば給与が交雑種去勢牛肥育に及ぼす影響

畜産総合研究センター生産技術部肉牛研究室 主席研究員 山田真希夫  
飼料費節減と食品残さの有効利用を図るため、廃棄されたゆでそばを乾燥粉碎し、濃厚飼料の一部代替として利用した肥育試験を実施したところ、良好な結果を得た。

7 胚の性判別による牛の雌雄産み分け状況

畜産総合研究センター生産技術部生物工学研究室 上席研究員 坂元克弥  
牛の雌雄産み分け技術は、農家の経営効率を高める上で有効な技術である。平成15年度に野外で実施した雌雄産み分けの成績と今後の課題について報告する。

養豚部門および養鶏部門

日 時 平成17年1月26日(水)

(養豚部門) 10時~12時30分

(養鶏部門) 13時30分~15時

場 所 成田国際文化会館 成田市土屋303 (TEL 0476-23-1331)

養豚部門 10時~12時30分

1 養豚における食品製造副産物を用いたリキッドフィーディングの経済的評価

畜産総合研究センター企画調整部経営調査室 上席研究員 鈴木一好  
食品製造副産物を用いたリキッドフィーディングを導入している養豚農家を調査したところ、発育改善効果とあわせた肥育豚での飼料費節減効果は31.4~35.4%であった。

2 「ボウソウW」を利用したF1種雌豚の繁殖並びに三元交配豚の産肉性

畜産総合研究センター生産技術部養豚養鶏研究室 主席研究員 鈴木 邦夫  
系統豚「ボウソウW」の効率的利用を図るため、ランドレース種との交配によるLW、WLの繁殖性並びに三元交配豚LWD、WLDの産肉性、肉質について調査したところ、WLの繁殖性、WLDの産肉性ともにLW、LWDに劣らず、WL×Dの組合せは有効だった。

3 ランドレース種の新しい系統豚「ボウソウL3」の性能

畜産総合研究センター生産技術部養豚養鶏研究室 上席研究員 高橋 圭二  
繁殖能力（産子数）と肢蹄の強健性（内側蹄と外側蹄のバランス）を重点に5世代にわたり改良を行った、ランドレース種の系統豚「ボウソウL3」の能力について報告する。

4 筋肉内脂肪含量を対象としたマーカー利用選抜

畜産総合研究センター生産技術部生物工学研究室 研究員 山口 倫子  
DNAマーカーを使って豚の遺伝子型を調べ、発育や肉質との関連性を解析したところいくつかの形質が検出された。その結果を利用してマーカー遺伝子型を指標に選抜が可能であるか試験中である。

養鶏部門 13時30分～15時

1 ワクモの殺虫剤に対する感受性は農場によって異なる？

畜産総合研究センター生産技術部養豚養鶏研究室 主席研究員 村野多可子  
市販殺虫剤7剤を用い、千葉県を中心に30農場から採取したワクモについて感受性試験を実施した結果、農場による薬剤の使用履歴により感受性は大きく異なった。

2 鶏の生育ステージでサルモネラはいつ感染しやすいか？

畜産総合研究センター生産技術部養豚養鶏研究室 主席研究員 村野多可子  
日齢の異なる鶏においてサルモネラの感受性を検討した結果、孵化直後のヒナ、大すう、産卵直前の若鶏、老鶏で高い感受性を示した。

3 採卵鶏の銘柄別性能比較試験

畜産総合研究センター生産技術部養豚養鶏研究室 主席研究員 徳丸 洋一  
採卵鶏のジュリア、ジュリアライト、シェーパーホワイト、ハイラインマリア、デカルブホワイト、ポバンスニーナ、イサブラウン、ボリスブラウンの8銘柄について育成成績、産卵諸性能、卵質、糞中水分率などを調査した。